



発行日：平成 30 年 6 月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第 46 回川部会WGを開催しました！

5月25日（金）に第46回川部会WGが開催されました。今回のWGでは、昨年度の活動の振り返りと今年度の川部会WGの進め方について意見交換を実施しました。また、話題提供として内田座長の研究室が取り組んでいる矢作川の底生動物の調査結果について紹介をいただきました。

日時：平成30年5月25日（火）9:30～12:00

会議場所：豊田市崇化館交流館

参加者：19名（事務局含む）



◆主な活動内容

1. 本日の話し合いでわかったこと、決まったこと



■今年度の川部会WGの進め方と今後の活動の方向性について話し合いをしました

OWG開催日数は昨年度までの月1回のペースから、2～3か月に1回程度のペースとします。

OWGでの議題について、山部会や海部会にも関係するテーマや興味をもていただけるような内容を取り上げることに努めます。

○本川モデルについて、土砂堆積や流出、洪水氾濫など上下流域に直結する課題について話し合いの場を設けます。また、矢作川本川で国交省、愛知県、豊田市が取り組んでいる対策の実施状況と効果について、情報共有の場を設けます。

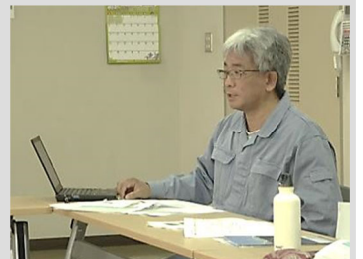
○家下川モデルについては、従来の新排水機場設置の進捗状況の確認に加え、家下川の源流部から最下流部までを探索し、流域を実体験しながら語り合う『エコツアー』の開催を企画します。

○地先モデルについては、昨年度から山部会と合同で取り組んでいる「流域圏担い手づくり事例集」の作成活動に参画し、情報共有を図ります。今年度の川関係の取材候補団体を以下の7団体とします。

- ・飯田市 鷺流峡復活プロジェクト
- ・根羽村漁業協同組合
- ・豊田市 梅坪水辺愛護会
- ・豊田市 岩本川創遊会
- ・岡崎市 内藤連三
- ・岡崎市 おとがワ！ンダーランド
- ・豊田市 土地改良区資料室

○合同部会について、山部会主催の8月会合には、川部会からも矢作川の水質について話題提供します。また川部会が主催する合同部会WGでは“土砂を軸とした山、海とのつながりについて”を話題とする方向で調整します。

○9年間の活動の総括と今後の活動の方向性については、情報のデータベース化と見える化の観点から議論を進めます。



2.意見交換



●出席者による主な意見交換内容は、以下のとおりです。

(●意見 ▶回答)

- 給砂実験や阿摺ダムの実験は、将来のどういう目的のためにやっているのか？例えば、どこのダムにたまっている砂を流せば効果的なのかわかるものなのか？（光岡）
- ▶ 国土交通省ではダムに堆砂した土砂を自然の状態の下流に流すことを理想として、色々な対策を試みているのが実状である。まずは、どの程度の量は流下させるのがいいのか、計画的に進める必要があると思われる。特に矢作川では中電のダムもあるため、関係機関との調整が必要となってくる。（事務局）
- ▶ 矢作川の問題はアーマー化した河床をどのようにして自然に戻すかである。各機関で色々な取り組みを行っているが、大きな問題は土砂が供給されないことと、大規模な洪水が必要ということである。洪水によって下流まで土砂が流されないと意味がない。流域に洪水を受け入れる許容性が必要である。（近藤）
- 漁協からの要望としては、フラッシュ放流の研究を進めてほしい。治水の安全対策を進めなければならないのは理解できるが、フラッシュ放流に関する研究、話し合いは進めることができると思う。（新見）
- 本川モデルとしては、国交省、愛知県、豊田市の各機関が本川で取り組んでいる内容を持ち寄って、話し合うのがよい。家下川モデルについては、排水機場の進捗状況について確認していただきたい。地先モデルは流域圏担い手づくり事例集を進めるということによい。（内田）
- 家下川モデルについては、野田さんと協力して佐久島で事例集交流会後に実施したエコツアーを家下川でも実施したいと考えている。ここで佐久島での実施状況を野田さんに紹介していただきたい。（事務局）
- 佐久島では山、川、海を一緒に体験できるエコツアーを企画して開催した。当日は3つのコースを設定した。小さな矢作川を体験できるミニ流域圏コース。河口から西側にある集落を対象とした時空ふれあいコース。西側の海岸で海食崖や磯の環境を対象とした生命圏つながりコース。短時間での探索であったが、干潟の生物調査や佐久島の地史、風土を体験することができ、とても有意義な内容であった。（野田）
- 流域圏担い手づくり集について、昨年度から山部会の企画に川部会の方にも参加していただくことで協力していただいた。今年度も同様の形式、スケジュールで進めたい。また、川に関係する活動団体も取材対象として取り上げたいと考えているので、候補があれば提案していただきたい。（洲崎）
- 貯木場の近くを流れる川で小さな自然再生を実施している団体がある。愛知県では先駆的な事例になるので取材先候補として推薦したい。（近藤）
- 今年度のまとめと今後の活動の方向性について、各部会の座長が集まって議論する場を設けることになっている。このとき、川部会から話しておいて欲しいことはないか。（内田）
- 9年の次のステージ以降で、定常的な情報がない状況で議論していることが多いので、外部からも内部からも話し合いの状況が不透明なものが多い。それぞれの地域、そのときの活動の情報が見えるようなデータベース化も必要であり、議論しやすい環境作りをお願いしたい。（鷲見）

●（話題提供）内田座長の研究室が取り組んでいる矢作川の底生動物調査について

- 矢作川で土砂の移動を増やすという実験に取り組んでいる中で、生物の観点からどのような変化があるかを把握するため、土砂の攪乱環境を好むキカワゲラ属の分布傾向を調べています。
- 阿摺ダム下流で取り組んでいるアユの生息環境改善実験の中で、礫置き区における河床の環境改善効果の指標として水生昆虫の種数、個体数の動態についてモニタリングを実施しています。
- 矢作川に生息する外来生物のカワヒバリガイの分布傾向と繁殖実態について調査し、発生源となっているダムを推定しています。

今後の流域圏懇談会の予定



■第47回川部会WG

※詳細日時はMLにて決定します。

日時：平成30年7月27日（金） 午後

内容：本川モデル 国交省、愛知県、豊田市が実施する河川整備の取り組みについて



◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 神本

TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

調査課 服部

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト (yahagigawa@iijinet.or.jp) までお送りください。

